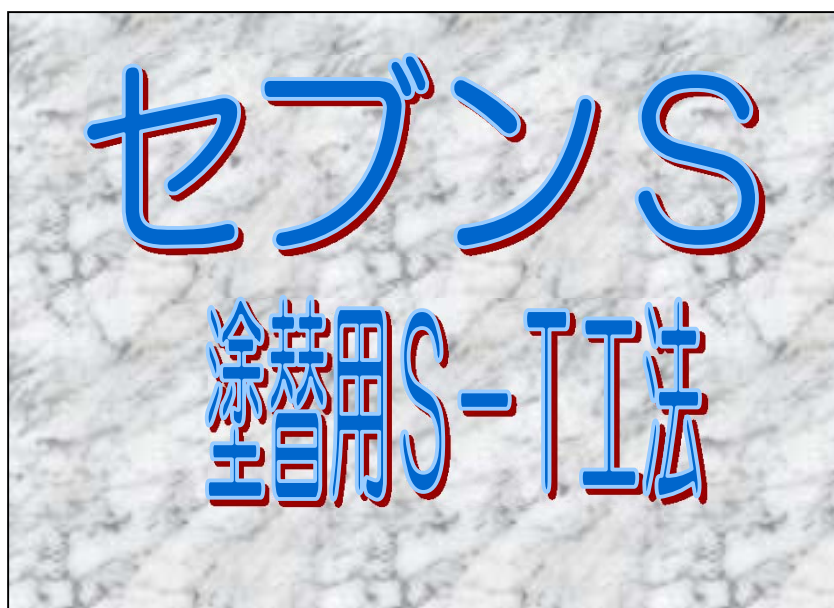


タイル面及び目地の保護と塗替え



既存塗膜のあるタイル・ガラスブロック面への施工

# 施工要領書

## 下地処理

塗膜を打診棒で叩たかず、必ず転がして下さい。

塗膜がひび割れる場合があります

□ 下地ごしらえ

- ① タイルの剥離部、浮き箇所、ひび割れ箇所は、事前に張り替え又は、エポキシ注入・シーリング材充填などの補修を十分にする。
- ② 既存塗膜のふくれ、はがれ箇所、及び、付着力不十分な塗膜は、タイル、目地毎に十分ケレン除去して下さい。(必要に応じ、既存塗膜とセブンス塗替用シーラーの付着性の確認をして下さい。)
- ③ 伸縮目地やその他のシーリング材が劣化し、補修の必要な箇所は、打ち替えを行い、乾燥硬化させる。打ち替え後は、シーリング上を養生するか見切り、セブンスは塗装しないで下さい。  
塗装する場合現在まで不具合の少ない、2成分形アクリルウレタンをお薦めしております。

(ガラスブロック面などへのご注意)

シリコンシーリングを打ち込まれている場合は、その上に塗装は出来ません。

ガラスブロック面や、目地モルタルへのシリコンシーリングによる汚染を十分にクリーニングし、付着阻害の無いようにしてから塗装して下さい。

セブンスを塗装する場合には、ポリイソブチレン系シーリング材に打ち替え、ご利用下さい。

- ④ ポリサルファイドシーリング材、変性シリコンシーリング材の場合、シーリング材の上へは養生し、セブンスを塗らないようにする。やむ得ずシーリング材の上に施工する場合は、次善に策として滲み止めプライマー、セブンファンデクリヤー I を施工前日までにシーリング材上へ、筆や、刷毛で塗り付けておく。
- ⑤ かびや藻などの微生物汚染を生じている場合は、カビ取り材、アルコール液で殺菌処理する。
- ⑥ 既存塗膜上の塵埃や付着物などの汚染物は、セブンデオM等を用い、汚れを除去した後、十分に水洗し乾燥させて下さい。
- ⑦ 汚れが残存したままセブンス仕上げすると、汚れた状態での仕上がりとなり、その後の汚染除去が困難となりますので、十分に清潔な面にして下さい。
- ⑧ 水洗後のタイル面を十分乾燥する。

# セブンS (S-T工法) の施工

- セブンS (S-T工法) の塗り工程  
〔細目砂骨ウールローラー又は、中毛ウールローラー仕上げ〕

工 程	使 用 材 料	希 積 (重量%)	塗付け量 (Kg/m <sup>2</sup> )	工程時間 (時間)	施 工 方 法
1 下塗り	セブンS塗替用 シーラー	無希積	0.08 ～0.12	3以上 24以内	中毛ウールローラー
2 主材塗り(1)	セブンS	水 (0～3)	0.4 ～0.7	3以上	細目砂骨ローラー
3 主材塗り(2)	セブンS	水 (0～3)	0.2 ～0.3	16以上	中毛ウールローラー
4 上塗り (艶有、半艶)	セブンストップM#3 0	無希積	0.12 ～0.15	2以上	中毛ウールローラー
5 上塗り (艶有、半艶)	セブンストップM#3 0	無希積	0.12 ～0.15	24以上 (最終養生)	中毛ウールローラー

◎斜壁部分への主材塗りは、1kg/m<sup>2</sup>を基準にして下さい。

- ☆ 塗装面及び、補修した目地モルタル部へセブンS塗替用シーラー塗布後、目地モルタルの吸い込みの大きい部分は、乾燥後、再度増し塗りし、目地モルタルを均一に濡れ色にして下さい。
- ☆ セブンS主材塗り2回で最低0.6kg/m<sup>2</sup>塗り切れない場合、塗りきるまで重ね塗りして下さい。
- ☆ タイルが接地面から張られている場合、接地面から10cm程、塗装は避けて下さい。
- ☆ 花壇や擁壁など裏面からの湿気供給が予想される部分への塗装は避けて下さい。
- ☆ 笠木部平場、天端などへはウレタン防水又は、セブンウォールなどで防水処置して下さい。
- ☆ セブンS塗装では、塗装しない取り合い側からの浸水による不具合無きようにして下さい。

- 1) 下地の状態により、塗付け量に差異を生じることがあります。  
深目地の場合、タイル木口部分の面積を予め加味して下さい。
- 2) セブンS主材塗りは、ローラーの運びをゆっくり配り塗りすると、気泡を含みづらくなります。一度に腕を伸ばし塗装すると、造膜不足になり、気泡が入り、白ぼけを発生し易くなります。
- 3) 予めセブンS主材の仕上方向を打ち合わせて下さい。
- 4) セブンストップは、1回目塗装後表面が乾燥しましたら、追いかけて2回目を塗装して下さい。  
(2回目を翌日塗付すると、リフティングするケースが多く認められます。)
- 5) タイル面が手触で暑い場合。セブンS主材塗付時の乾きが早くなり、不具合を発生し易くなりますので、注意して下さい。
  - ・セブンS主材に水道水3% (300～400cc)程を加え、混練棒にて気泡が入らぬように攪拌し、塗膜の表面乾燥を遅らせる。
  - ・セブンS主材を狭い面積づつ塗り継ぎ、主材の糸引き、ローラー運びが重くなったら、塗りを止め、乾燥硬化後に塗り増しして下さい。
  - ・セブンS主材表面が皮張り、糸引きが始まってから、ローラーを運ぶと、塗膜表面を荒らし、気泡混入させ、仕上面を悪くし、白ボケの要因となります。

●はじめに

セブンスシリーズは、透明仕上げの為、汚れたローラー、ハンドル、攪拌棒等は使用しないこと。

1) 下塗り

- ① 下地調整が十分行われていることを確認後、下塗り工程を行う。
- ② セブンス塗替用シーラーは、基剤／硬化剤を 11／1（重量比）とし無希釈で、ハンドミキサー等で均一に混合する。
- ③ 中毛ウールローラー又は、スプレー塗りにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に所定量塗り付ける。（下地、タイルの状態により塗布量が異なる場合があります。）

2) 主材塗り〔細目砂骨ローラー又は、中毛ウールローラー塗り〕

- ① 下塗りの乾燥後（3時間以上）、主材塗りする。 ※指触で確認する。
- ② セブンスを0～3%水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないように練棒等で静かに攪拌する。  
通常の高速ハンドミキサーは、使用できません。
- ③ 細目砂骨ローラー又は、中毛ウールローラーにセブンスをたっぷり含ませ、気泡が混入しないように、ならし塗り、仕上げ塗りし、均一に仕上げる。（予め砂骨模様の方向を打ち合わせて下さい。）新しいローラーを使用する場合は、あらかじめ水でよくなじませ、気泡を混入しないよう均一塗りを行う。  
一度に腕を伸ばし、塗装すると造膜不足になり、気泡が入り易くなります。
- ④ セブンス 1回塗り面の乾燥硬化（通常3時間以上）後、透明になってから、2回目のセブンスを中毛ウールローラーを用いて、1回目同様に2回目を仕上げる。

3) 上塗り

- ① 主材セブンスの乾燥硬化を確認後、上塗り工程を行う。
- ② セブンスストップM#30は、基剤／硬化剤を11／1（重量比）とし、主剤、硬化剤を必ず全量混入し、ハンドミキサー等を使用して均一に混合する。上塗材の半艶は、艶消し材が分離状態になっている場合もありますので、缶の底部まで充分混合するよう特に注意して下さい。  
上記の理由から、石油缶より少量の使用は行わないで下さい。少量使用の場合は、3Kgセットをご利用ください。
- ③ 中毛ウールローラー又は、エアレススプレーにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に塗り付ける。なお、主材塗りも含めて、透明仕上げのため、塗り残し、塗りむらのないよう十分注意が必要である。
- ④ セブンスストップM#30 1回塗り面の乾燥後（通常2時間以上）、2回目のセブンスストップM#30を中毛ウールローラーを用いて、1回目同様、2回目を仕上げる。
- ⑤ セブンス主材層は、透明な塗膜なので、上塗りを塗るとき、塗り残しが発生しやすいので、2回塗りをして下さい。

## 施工全般における注意事項

セブンスを斜壁面や手摺天平端面などに施工した場合、垂直面と比べ、陽射しの当たる角度からタイル表面温度の高低差が大きく、平場面のように降雨の滞留時間も長く、塵埃なども堆積し易く不具合進行が速いことから、毎年1度の点検と、不具合部分の補修、更に、5～7年程度でのトップコート塗り増しをご提案いたします。

- A) セブンスシーラー、セブンスネオシーラー、セブンストップM#30は溶剤系ですので、臭気等を発生させるため、近隣周囲への配慮を十分注意し、施工する。居室内で使用する場合、塗料扱い時、塗装時には、通気・換気を十分に行ってください。
- B) 躯体(素地)に、外観上の欠陥があれば、施工を禁じ欠陥処理を行う。
- C) 気温変動での注意  
低温(5℃以下)の場合、樹脂の反応硬化に支障をきたす場合があるため施工中止して下さい。  
高温(気温35℃以上、躯体温度30℃以上)、及び湿度85%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。
- D) 降雨・降雪の恐れがあるときは、施工を避ける。
- E) 風速5m/sec以上のときは、塗材の飛散公害・塗付けムラ等の支障をきたすので、施工に十分注意する。
- F) 材料の保管は、風雨・直射日光を避け、必ず冷暗所で保管する。
- G) トップコート・希釈剤・シーラーは、溶剤系なので火気、中毒等に十分注意する。
- H) 塗付け途中、又は乾燥途中に急に雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまで、天幕などで覆って流出しないようにする。
- I) セブンスの保管は、5℃以上の場所で保管する。
- J) タイル目地をダイレクトシールやシーリング材等で補修してある場合は、目地の色が不均一となるので、あらかじめ管理者に了解を得る事。
- K) セブンスシーラーや、セブンスネオシーラーを塗装すると、目地が濡れ色で黒くなるので、予め、発注者に承認を受ける。ようにする。  
又、濡れ色で濃い部分と、目地モルタル色のむらに仕上がった場合は、目地の劣化が進行している場合が考えられるので、セブンスシーラーを再度塗装し、濡れ色に統一させる。
- L) セブンス(主材)に清水を入れ攪拌する場合は、ハンドミキサー等は使えません。、高速回転の機械を使用すると、気泡が混入して抜けませんので、必ず攪拌棒で静かに攪拌する。
- M) タイル目地や、タイルにひび割れが発生している場合は、シーラー塗装後、予め、セブンス(主材)をひび割れ部に、ハケ又は、ゴムべら、ローラー等で増塗りを行い、乾燥後、ローラー又は、吹付けの通常工程作業を行う。
- N) 各工程の塗材塗装後すぐに塗面を養生シート等で密閉すると、養生シートと塗膜が接着し剥がれなくなることがあるので、養生シート等で密閉しないように注意する。(逆養生が不要となる手順を考える。)
- O) 材料の取扱いの際は、MSDSを確認してください。

## 使用材料一覧表

□ 荷 姿

製 品 名	容 量	荷 姿	備 考
セブンS塗替用シーラー	12Kgセット	石油缶	基剤/硬化剤 11/1
セブンS塗替用シーラー	3Kgセット	角缶	
セブンS	14Kg	石油缶	中塗(防水層)
セブンS	4Kg	石油缶	中塗(防水層)
セブンストップM#30	12Kgセット	石油缶	基剤/硬化剤 艶有、半艶 11/1
セブンストップM#30	3Kgセット	角缶	
セブンストップM#30 シンナー	16L	石油缶	希釈用シンナー
セブンヨゴレガード	4L	ポリ容器	汚染防止剤
セブンデオM	4L	ポリ容器	洗浄剤
セブンファンデクリヤー I	1Kg	角缶	ウレタン系1液型

 **株式会社 セブンケミカル**

東京都新宿区西新宿7-17-14(源共同ビル)

TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619

e-mail kuroyanagi@seven-chemical. co. jp

e-mail hukuda@seven-chemical. co. jp